

『小中一貫』だより

11月12日(火)に、「東陽中学校区 小中一貫教育研究発表会」が実施されました。

これは、東陽中学校区の3校(東陽中学校・高田小学校・川添小学校)が、大分市の小中一貫教育推進校の指定を受け、3年間研究をしてきた取組・成果などを発表するものでした。

【全体会】(会場：高田小学校体育館)

大分市の栗井教育長をはじめ、教育委員会の方々、そして、多数の市内の小中学校の先生方を迎え、全体会を開催しました。

全体会では、これまでの小中一貫教育の概要、部会の取組、研究経過などを説明しました。



【公開授業】(会場：高田小学校：小学校の公開授業 → 東陽中学校：中学校の公開授業)

最初に小学校の公開授業が4教室でありました。高田小学校は3年生と6年生が「算数」を、川添小学校は3年生と5年生が「道徳」の公開授業を行いました。その後、場所を東陽中学校に移し、1年生の2クラスがそれぞれ「数学」と「道徳」の公開授業を行いました。多くの参加者に囲まれていつもと違う環境でしたが、児童生徒は緊張しながらも一生懸命授業に頑張りました。

《小学校》



《中学校》



【事後協議】（会場：東陽中学校）

公開授業後、参加者が4つのグループにわかれ、視点に沿って協議しました。視点は『伝え合い』、『認め合い』です。これは東陽中学校区での小中共通の取組項目であり、3校で研究を重ね、工夫しながら授業で取り組んできたものです。公開授業ではどのように取り組んでいたか、その成果と課題は何だろうかと話しました。その一部を紹介します。

【算数・数学部会】

- 自分から意見を出す人が多かった。全体の中で自分の思いをつぶやける生徒がいてよかった。感情や思考の整理ができていた。
- ペアトーク、グループトークのやり方が身についている。ルールづくりができています。学びの場になっていた。
- キーワードを多く用いていて、伝え合いがしやすかった。
- 生徒の反応（「確かに」「すごい」）がよかった。自然な拍手があった。
- 他者の意見を、自分の考えに活かすことができていた。
- 教師が「この考えいいね」などの声かけができていた。
- お互いを認め合い、協働的な学びができていた。
- 深める問いのあとに、話し合いを入れる方がよかった。
- ICTの使い方→多用することで生徒の交流、つぶやきが減ってしまっていた。



【道徳部会】

- 話し合い、発表のルールがよくできていた。班での役割ができていた。
- 班長を中心にホワイトボードに考えをまとめることができていた。
先生もポイントをしばって、班活動がスムーズに進んでいた。
- ワークシートの工夫が見られた。
- 発表をした後に、拍手や「同じです」など反応があり、安心感がある。
発表したくなる雰囲気があった。うなずき＝共感。
- 発表者に対して体を向けて聞く姿勢が見られ良かった。
- 教師が見回りをしながら、ワークシートにチェックをしたり、声をかけたりしていた。
- 深まりや新しい発見をワークシートに書かせるといい。
- 「自分だったらどうするのか？」自分事として考え、意見し合うことが必要である。



今回の研究発表会での成果・課題を明確化し、今後も毎日の授業の中で改善を図りながら、東陽中学校区の授業スタイルを確立させていきます。これからも子どもたちのために3校で頑張ります。